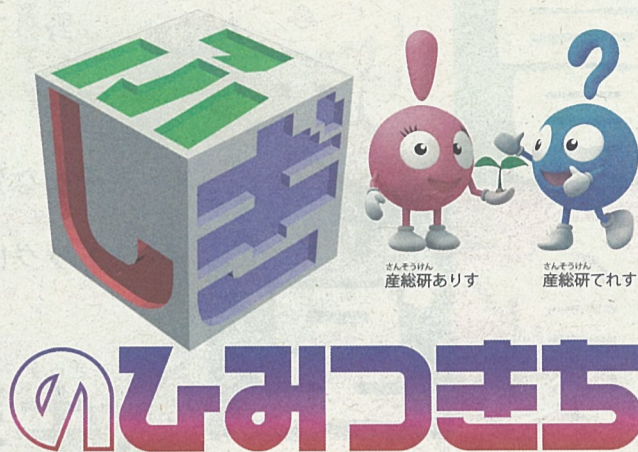


今回のテーマ

海の中のプラスチック



知ってる？ 環境にやさしいプラスチックがあるんだって。海を汚さないことが期待できそう！

スキューバダイビングで見る南の暖かい地域の海の中は、透明でカラフルな魚が多くて、とても楽しいものです。暖かい地域だけでなく、北海道の流水の下にだって潜れます。たくさん潜ることによって海の中でも四季を感じることもできます。でも、見えてくるものがほかにもあります。それはごみです。



◇年々増えるプラごみ

プラスチックごみは年々増えていて、2019年6月に大阪市で行われた主要20か国・地域首脳会議(G20サミット)において、海洋プラスチックごみによる新たな汚染を50年までにゼロを目指すことになりました。

ポリ袋をクラゲと間違えて食べてしまい死んでしまったカメの話や、劣化して細くなったプラスチックが魚の体の中にたくさん残っていて問題になっている話などニュースで見たりも聞いたことありません。

海に流れ込んだプラスチック

はほとんど分解しないので、どんどんたまり続けます。自然界にたまらないようにするにはどうしたら良いのでしょうか。

◇3R+リニューアブル

連載の2回目に紹介した「3R+リニューアブル」を覚えていませんか。3Rとは、リデュース(ごみを減らすこと)、リユース(繰り返し使う

産総研では30年くらいまえからかってに分解するプラスチックを研究してたんだよ！



こと)、リサイクル(ごみを原料にして再び製品を作ること)。そしてリニューアブルは、プラスチックを、植物のような自然の力で作ることです。この取り組みを通して、環境に出ないようにすること。そして、今までのプラスチックを、微生物の働きで分解する「生分解性プラスチック」に置き換えることです。

産業技術総合研究所は30年も前から生分解性プラスチックの研究を進めています。今では、漁網にも使える強いものや廃棄後に分解が始まるものも発明しています。これを使えば、海にプラスチックごみが流れ着いても自然界にすむ微生物の力によって二酸化炭素や水に分解されて、ごみが少なくなるのです。

今日の先生



小笠原啓一さん

「化学の博士です。ダイビングインストラクターもやっています。小学生時代は算数、理科、体育大好き」

産業技術総合研究所(産総研)広報部。専門は、効率の良い化学系システムの開発。出身小学校は東京都西東京(当時は田無)市立田無小。

さんそうけんって？

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国11か所の研究拠があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブサイトはこちら → (さんそうけんサイエンスタウン)

